

## 現代文化分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH373	論文演習IA	2	1.5	1	春ABC	応談		江藤 光紀	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 主専攻必修科目。
02DH374	論文演習IB	2	1.5	1	秋ABC	応談		江藤 光紀	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 主専攻必修科目。
02DH375	論文演習IIA	2	1.5	2・3	春ABC	応談		竹谷 悦子, 山口 恵里子, 清水 知子	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 主専攻必修科目。
02DH376	論文演習IIB	2	1.5	2・3	秋ABC	応談		竹谷 悦子, 山口 恵里子, 清水 知子	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 主専攻必修科目。
02DH377	論文演習IIIA	2	1.5	1 - 3	春ABC	応談		竹谷 悦子, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 宮崎 和夫, 江藤 光紀, 佐藤 吉幸, 清水 知子	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目。
02DH378	論文演習IIIB	2	1.5	1 - 3	秋ABC	応談		竹谷 悦子, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 宮崎 和夫, 江藤 光紀, 佐藤 吉幸, 清水 知子, 馬籠 清子	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目。
02DHA11	博士論文執筆演習 I	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談		廣瀬 浩司	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的としたものである。受講生には自らの研究の目的や方法、論文の章立て、論文の完成・提出までのスケジュールを文章にまとめて発表する。演習Iでは研究目的の明確化とそれにふさわしい方法論の確立を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	西暦偶数年度開講。 0BBAJB1と同一。
02DHA13	博士論文執筆演習 II	2	1.0	1 - 3					この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的とする。演習IIでは、一次資料の収集・分析、先行研究への批判的分析を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	0BBAJB2と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
02DHA21	国際研究・教育実践演習 I	2	2.0	1 - 3	春AB	応談		馬籠 清子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、海外において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。履修条件として、本学の協定校以外の海外の大学に留学し帰国した学生、また海外の研究機関などにおける研修を受けて帰国した学生であることが求められている。また履修登録は留学あるいは研修が終了し、帰国してから原則として1年以内に行う。この授業では研修に関する口頭発表を行い、研究・研修報告書の作成が求められる。	0BBAJC1と同一。
02DHA23	国際研究・教育実践演習 II	2	2.0	1 - 3	秋AB	応談		竹谷 悦子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、協定校であるカナダのプリンス・エドワード島大学(UPEI)において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。UPEIの夏期短期研修「英語で授業ができる教員養成のための海外研修プログラム」を受講し、この科目を履修登録した学生は、帰国報告会での英語による口頭発表を実施する。	0BBAJC2と同一。

## 言語情報分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH411	言語情報論特論IIA	2	1.5	1・2					日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。	西暦奇数年度開講。 01DE411と同一。 要望があれば英語で授業
02DH412	言語情報論特論IIB	2	1.5	1・2					春学期に引き続き、日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。	西暦奇数年度開講。 01DE412と同一。 要望があれば英語で授業

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH419	異文化言語比較特論演習 IIA	2	1.5	1・2					生成文法理論の理解を深めるために基本的文献を講読する。日本語、英語に焦点をあて、文や動詞句、名詞句構造に関わるテーマを扱う。	西暦奇数年度開講。01DE419と同一。
02DH420	異文化言語比較特論演習 IIB	2	1.5	1・2					共時的、通時的な観点から、日本語、英語を中心とした諸言語の文、動詞句、名詞句構造に焦点をあて、言語間の違いを類型論の立場から検討する。	西暦奇数年度開講。01DE420と同一。
02DH423	異文化言語習得論特論 IIA	2	1.5	1・2					外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探る。	西暦奇数年度開講。01DE423と同一。
02DH424	異文化言語習得論特論 IIB	2	1.5	1・2					外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。その応用としてリーディング能力獲得への英文読解指導法を提言する。さらに、理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザインについて学んでいく。	西暦奇数年度開講。01DE424と同一。
02DH427	異文化言語教育評価論特論 IIA	2	1.5	1・2					言語評価及びテスト作成の理論を学ぶ。授業評価や研究計画を立てる際に必要な知識を身につける。また、実際にさまざまな評価・統計手法を使えるように演習する。	教室: 人社棟A721 西暦奇数年度開講。01DE427と同一。
02DH428	異文化言語教育評価論特論 IIB	2	1.5	1・2					仮説検証型の研究を実施するための、さまざまな最新の統計手法を学ぶ。また、研究テーマを絞り、研究発表を行なっていく。	教室: 文科系修士棟8B201 西暦奇数年度開講。01DE428と同一。
02DH429	異文化言語教育教材論特論 IA	2	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 B615	久保田 章	英語教育用教材の分析、評価、開発に関して、理論と実践の観点から多面的に考察する。特に、B. Tomlinson(2016)を中心に教材開発に関わる諸問題について議論する。	西暦偶数年度開講。01DE429と同一。
02DH430	異文化言語教育教材論特論 IB	2	1.5	1・2	秋ABC	水3	人社 B615	久保田 章	異文化言語教育教材論 IAの学修を基盤として、さらに英語学習教材の作成、開発、評価に関わる諸問題について多面的に考察する。	西暦偶数年度開講。01DE430と同一。
02DH431	異文化言語教育教材論特論 IIA	2	1.5	1・2					言語教材論の観点から、言語の習得と教授にかかわる理論的、実践的研究に関する文献を講読し、問題点について議論する。特に認知的な研究を背景として、教材論の体系化をめざす。	西暦奇数年度開講。01DE431と同一。
02DH432	異文化言語教育教材論特論 IIB	2	1.5	1・2					言語教材の開発と第二言語習得研究の関係について、教材の評価等の観点から具体的に考察する。	西暦奇数年度開講。01DE432と同一。
02DH455	異文化言語特論演習 (1) IIA	2	1.5	1・2					本授業の目的は、(a)APAスタイルによって、論文執筆をするための表現練習を行い、(b)論文での表現力を高めるためのコーパスその他の検索ツールを学ぶことである。	西暦奇数年度開講。01DE455と同一。
02DH456	異文化言語特論演習 (1) IIB	2	1.5	1・2					本授業の目的は、(a) 英語論文/資料の要約方法を学び、(b) 研究メモ/資料から実際の論文を執筆する手法を学ぶことである。毎回の課題提出と添削から、実際の論文執筆に即して、こうした点を具体的に学んでいく。	西暦奇数年度開講。01DE456と同一。
02DH459	異文化言語特論演習 (3) IIA	2	1.5	1・2					特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、機能語とされる表現が文内・テキスト内で果たす意味論的機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。	西暦奇数年度開講。01DE459と同一。
02DH460	異文化言語特論演習 (3) IIB	2	1.5	1・2					特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、実際に使用される表現を持つ、会話における機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。	西暦奇数年度開講。01DE460と同一。
02DH463	異文化言語特論演習 (4) IIA	2	1.5	1・2					中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。01DE463と同一。
02DH464	異文化言語特論演習 (4) IIB	2	1.5	1・2					中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。01DE464と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH479	論文演習IIA	2	1.5	2	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 主専攻必修科目。
02DH480	論文演習IIB	2	1.5	2	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 主専攻必修科目。
02DH481	論文演習IIIA	2	1.5	3	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目。
02DH482	論文演習IIIB	2	1.5	3	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目。
02DH483	論文演習IA	2	1.5	1	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 主専攻必修科目。
02DH484	論文演習IB	2	1.5	1	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 久保田 章, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 主専攻必修科目。
02DH485	異文化言語特論演習(2)IIA	2	1.5	1・2					コンピュータ、情報通信技術(ICT)を活用したダイナミックな外国語教育の理論と実践に関する文献を講読し、近年のComputer-Assisted Language Learning (CALL)、Technology Enhanced Language Learning (TELL)、およびe-Learningの背景となる理論を教育工学的視点から理解する。	西暦奇数年度開講。 01DE479と同一。
02DH486	異文化言語特論演習(2)IIB	2	1.5	1・2					最近のComputer-Assisted Language Learning (CALL)における実践研究に着目し、学生自身のPCを活用しながら多くのハンズオンを実施し、高等教育機関の授業におけるICTスキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。 01DE480と同一。
02DH621	異文化言語習得特論-21A	1	1.0	1・2	春AB	月2	人社 A721	卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探り、その応用として教室における英語リーディング指導の在り方を検証する。	西暦偶数年度開講。 01DE621, OABALA1と同一。
02DH622	異文化言語習得特論-21B	1	1.0	1・2	秋AB	月2	人社 A721	卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語の「読み」の理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、さらには、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	西暦偶数年度開講。 01DE622, OABALA2と同一。
02DH623	異文化言語習得論-211A	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。最新の文献から、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを検証する。	西暦奇数年度開講。 01DE623, OABALA3と同一。 2020年度開講せず。
02DH624	異文化言語習得論特論-211B	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、英語の「読み」の理論と実践研究の諸問題を考察し、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	西暦奇数年度開講。 01DE624, OABALA4と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH625	異文化言語教育評価論特論I-2A	1	1.0	1・2	春AB	木4	人社A721	平井 明代	本講義では、コミュニケーション能力とはどのような能力で構成されているのか、さまざまな言語モデルに触れ、その構成されている概念に関する知見を深めることを目標とする。これらの構成概念の中で、日本人学習者にとって重要と思われる語彙や文法能力を如何にコミュニケーションの中で使えるようになるかについて、モデルを基礎、講義や討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。そしてそれを如何に評価していくかを考察していく。	西暦偶数年度開講。01DE625, 0ABALC1と同一。
02DH626	異文化言語教育評価論特論I-2B	1	1.0	1・2	秋AB	木4	人社A721	平井 明代	技能統合的タスクやパフォーマンス能力に関する理論と指導方法を踏まえ、その評価方法の知識を習得することを目標とする。具体的な技能統合的タスクの事例を上げ、それぞれのタスクが、どのような現実のコミュニケーション能力に効果があるかを議論することによって、その理論と指導法の知識を深めることを狙いとする。その後、それぞれのタスク講義と討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。その後、それらのタスクを如何に評価していくかを考察していく。	西暦偶数年度開講。01DE626, 0ABALC2と同一。
02DH627	異文化言語教育評価論特論II-2A	1	1.0	1・2					本講義では、4技能の伸びや授業の進み具合の評価についての理論とその評価手法について学んでいく。中でも生徒の学習状況を知るため、また、成績を付けるためにテストを実施することは不可欠である。そのテストを作成する際にどのようなことに気をつけて作成すればよいのか、テストによって派生する効果について講義と討論をとして知識を深めることを目標とする。特に、大学入試改革における現状のテストで求められる能力、その能力を身につけるためのテストと評価のあり方を考えていく。	西暦奇数年度開講。01DE627, 0ABALC3と同一。 2020年度開講せず。
02DH628	異文化言語教育評価論特論II-2B	1	1.0	1・2					本講義では、教授法の違いによる言語の伸びの測定や認知能力の心理測定についての理論を学んでいく。古典的テスト理論から項目応答理論、効果量の測定、一般化可能性理論、構造方程式モデリング、メタ分析などさまざまな現代のテスト理論とその手法について関連文献を読み進めながら知識を深めていくことをねらいとする。その中で必要な統計手法の実践や実際にその手法が使用されている文献を探ることで、理論だけでなく実際に研究に応用できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。01DE628, 0ABALC4と同一。 2020年度開講せず。
02DH653	異文化言語特論演習(1-2) IA	1	1.0	1・2	春AB	木3	人社A721	磐崎 弘貞	本講義では、語彙指導を中心に据えながら、英語教育学分野における実践的な手法を、その理論的背景と共に理解することを目指す。先行研究および授業ビデオを活用しながら学び、4技能5領域における幾多の授業手法が、どのような原理に基づいているのかを説明することで、授業実践に係る原理と効果的な指導法を理解していく。さらに、こうした点を授業実践力育成の観点からグループ・ディスカッションをすることによっても、理解を深める。	西暦偶数年度開講。01DE653, 0ABALB1と同一。
02DH654	異文化言語特論演習(1-2) IB	1	1.0	1・2	秋AB	木3	人社A721	磐崎 弘貞	本講義では、英語教育における統語構造および語彙文法の学習を、いかにコミュニケーション活動と統合して、実践していくかを学んでいく。そのために、取り上げる統語構造および語彙文法を、先行研究における指導上の留意点および英語学の観点から学び理解を深めた上で、Focus on Formの枠組みを用い、そうした事項をいかに効果的なコミュニケーション活動に落とし込んでいくかについて学ぶ。このために、グループディスカッションも取り入れ、理論・実践の両面から理解を深める。	西暦偶数年度開講。01DE654, 0ABALB2と同一。
02DH655	異文化言語特論演習(1-2) IIA	1	1.0	1・2					本講義では、英語教員および英語研究者として必要な学術的表現力、特にアカデミック・ライティング力を向上させることを目指す。このために、(a)学術領域におけるライティングの日英語の発想の違いを理解し、(b)論文執筆に必要なreferencesおよびオンライン/オフライン・コーパスの検索技術を理解し、(c)英文要約の効果的な手法を理解した上で、(d)APAスタイルで英文を執筆する手法と推敲方法を学んでいく。このために、毎回の事前課題提出および授業内のディスカッションを重視して、こうした点の理解を深める。	西暦奇数年度開講。01DE655, 0ABALB3と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH656	異文化言語特論演習(1-2) I1B	1	1.0	1・2					本授業では、先行文献における英文実証研究を参考にしながら、リサーチ内容を発表する上での、効果的なプレゼンテーション手法について理解を深める。そのために、国際学会での発表を念頭に、APAスタイルでのリサーチ概要のまとめ方、議論の組み立て方、学術用語の定義、難解表現のパラフレーズ、効果的なスライド作成、メモを読まずにスライド上のキーワードを基に発表する手法、効果的なアイ・コンタクトについて、実践的に練習を行い、ピア・フィードバックも交えて発表スキルを高めていく。	西暦奇数年度開講。01DE656, 0ABALB4と同一。 2020年度開講せず。
02DH677	異文化言語特論演習(2-2) IA	1	1.0	1・2	春AB	火2	人社 A721	小野 雄一	本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、多読、多聴、語彙、発音についての教室外学習、ダイアローグ、日記、オンライン素材、ゲーミフィケーション、ソーシャルメディア、交流サイトについて概観する。	西暦偶数年度開講。01DE677, 0ABALD1と同一。
02DH678	異文化言語特論演習(2-2) I1B	1	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 A721	小野 雄一	本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、PBL学習、PBL協働学習、自律的学習、エコロジー、ビデオ制作についての教室外プロジェクト、海外研修、異文化遭遇、教員養成、文化的利益、ホームチューターなど母語話者との交流について概観する。	西暦偶数年度開講。01DE678, 0ABALD2と同一。
02DH685	異文化言語特論演習(2-2) I1A	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、コンピュータを活用した学習、CALLからTELLへ、デジタルという文脈、ハードウェアの役割、リスニングスキル、スピーキングスキル、リーディングスキル、デジタルテキストについて概観する。	西暦奇数年度開講。01DE679, 0ABALD3と同一。 2020年度開講せず。
02DH686	異文化言語特論演習(2-2) I1B	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、ライティング支援、協働ライティング、視覚情報の役割、マルチモーダルな学習、仮想的な学習環境、協働的プレゼンテーション、若者とテクノロジー、安全と子供たちの保護について概観する。	西暦奇数年度開講。01DE680, 0ABALD4と同一。 2020年度開講せず。
02DH691	英語教育学プロジェクト特別演習-21A	1	1.0	1 - 3	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代, 土方 裕子	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。0BBAL1と同一。
02DH692	英語教育学プロジェクト特別演習-21B	1	1.0	1 - 3	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代, 土方 裕子	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。0BBAL2と同一。
02DH693	英語教育学プロジェクト特別演習-211A	1	1.0	1 - 3					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。各教員の主指導学生に限る。 0BBAL3と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH694	英語教育学プロジェクト特別演習-2I1B	1	1.0	1 - 3					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独自の研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。各教員の主指導学生に限る。0BBALB4と同一。2020年度開講せず。